

## 1. 今現在の支援状況を見てどう感じますか？

- ・ 本当に必要な物が届いていない！！義援金を集めるまでは早いですが、使われ方や使うまでの時間が長い。
- ・ 本当か嘘か？TVやメディアのあり方。未来のあるこどもたちへ
- ・ 物資を入れるだけではなく、被災者の立場に立った支援をして欲しい。
- ・ 支援とは何を考えた時にあまりに広すぎて・・・私にできたことは、被災者に合えたことです。
- ・ スピード感がない。法律がネックになっている。
- ・ 3ヶ月経ってもあんまり変わっていない。地元船橋のNPO法人は頑張っている。
- ・ スピーディーにもっと政府は動くべきではないか。
- ・ 政府のビジョンが出ないのが不満。
- ・ 有事はいつ起こるか分からない。私たちの次の世代が手探りでやらないで済むようなマニュアル作りを行うべきである。
- ・ 行政の対応がポイント。廃棄物処理についても法律が邪魔をしている。被災地単位での方向性を打ち出す必要がある。

## 1のまとめ

東日本太平洋沖地震は、多くの機関、組織そして人々を大混乱へと陥れた。

過去に経験のない今回の大震災により、有事の際に行うべきこと、決めておくべきことなど多くの問題がでてきている。

義援金や支援物資の受入や受け渡し、復興支援、法律の特別処置など今後もし起こりうる未曾有の災害に対処するべく、事前にマニュアル作りを行うことが必要である。

## 2. もし自分が被災者だったら何が必要になりますか？

ライフライン、生活用品、トイレ、電池（特に単一）、懐中電灯、ラジオ、暖を取れる物、アナログ電話、食糧、正しい情報、通信手段、断熱材、衣料品、下着、安全、支援、カウンセリング、医者、発電機、子供達の玩具、紙、備蓄倉庫、交通手段、医薬品、家族安否情報、仕事、雇用、プライバシー

### 2のまとめ

直後～1ヶ月～3ヶ月と時間が経過するにつれて必要になってくる物は変わってくる。

被災場所によっても必要な物が異なり、「必要としている場所」に「必要な物」が届いていないことが現状である。

必要としている場所に必要な物が届けられるような情報を共有出来るシステム。また、時間が経過していくにつれ、被災者の精神面でのケアも必要となる。

### 3. 商売に必要なものが足りなくなったら、どうしますか？

- ・ 車両の軽油、ガソリン  
自家給タンクから近場の同業者に販売した。  
電気自動車に変更する。  
ハイブリッド車の有効性が実証できた。
- ・ 部品、材料  
社員に権限を委ねて足りない物を調達した。  
国内になれば海外から発注。
- ・ 電気  
自家発電システムの導入。
- ・ 雇用  
従業員の確保。
- ・ その他  
冷蔵庫の中身が腐敗、その後のリサイクルのシステム。

### 3のまとめ

今回の緊急事態では日頃から培った人間関係によって助けられた部分が多い。  
同業種、他業種問わず、人間関係の構築により様々な可能性がでてくる事が分かった。

また、これから本格的な夏へと入り、気温の上昇とともに電力の消費も増加が予想される。大規模停電の回避、業務の円滑な遂行を考慮し、独自の節電対策、エネルギー確保が必要になる。

## 総評

震災直後から数日間は携帯電話をはじめとする通信機器類はほとんど使えなかった。

しかし、インターネットは使えたため、ツイッターなどソーシャルネットワークを利用しての情報共有が大活躍であった。

近年は、ソーシャルネットワークが流行しており、個人だけでなく様々な業界で使われている。

福井県の青年中央会では、既に導入がされており震災後、情報交換の場として活躍したことが報告されている。

千葉県の青年中央会としてもこのようなシステムを使うことが望ましいのだが、新しいものを導入するとなると得意不得意による個人差が生まれてしまい、不得意な人からの参加は難しいと思われる。また、堅苦しいテーマで作ったものであると逆に敬遠されてしまう恐れがある。

既にあるもので、比較的使いやすいものとして「関東甲信越静ブロック青年中央会」で運営している情報発信掲示板がある。

現在は、1都10県の青年中央会に所属している会員が情報公開の場として使用されている。千葉県も運営に協力をしているが、所属会員まで存在を知ってもらえていないのが現状である。

この掲示板の活用方法として、新たな人間関係の構築や緊急時の情報発信の場として、県内だけでなく関東甲信越静の1都10県の青年中央会所属会員で使えるツールとして、会員に使用してもらえればと考えている。

関東甲信越静ブロック青年中央会ホームページ

<http://www.kanbro.net/>